

16番	新井 亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
1. 働く親と子どものための放課後児童クラブについて 【質問趣旨】 本市には小学生の健全な育成を図る施設として、厚生労働省が所管する放課後児童クラブが27か所、文部科学省が所管する放課後学級が14か所あります。 放課後児童クラブは、共働き・ひとり親の小学生の放課後（土曜日、春・夏・冬休み等の学校休業中は一日）の生活を継続的に保障することで、児童の健全育成と、仕事と子育ての両立を支援することが目的とされています。本市では、総人口も子どもの数も減少していますが、放課後児童クラブの登録人数は減少していません。 (次頁)	(1) 市長の描くビジョンについて (2) 放課後児童クラブと放課後学級について (3) 放課後児童クラブの運営と利用料等について	①共働きやひとり親の小学生の放課後の生活を保障し、親の仕事と子育ての両立を支援する事業である放課後児童クラブを実施することで、本市をどのようなまちにしたいと考えているのか、市長としての思いを伺う。 ①本市には「子どもの健全な育成を図る施設」として、放課後児童クラブが27か所、放課後学級が14か所設置されているが、2種類の事業内容について具体的に伺う。 ②放課後児童クラブと放課後学級の対象となる児童を伺う。 ①本市の放課後児童クラブは、NPO法人、株式会社等の企業、保護者会などに運営が委託されており、公立の放課後児童クラブは設置されていないがその理由を伺う。 ②尾張旭市には、公立と民間の放課後児童クラブがあり、長久手市は公立と保護者運営の放課後児童クラブがある。両市と比較すると、本市の利用料（保育料）は高く設定されているが、これは事業者を支払われている委託料の額が影響していると考えます。事業者への委託料はどのように算出されているか。また、市単独の補助はあるか伺う。 ③放課後児童クラブの中には、車やタクシーで送迎を行っているクラブもあるが、委託料の算定に送迎支援を算定していない理由を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

16番	新井 亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
このことから分かるように、子育てと仕事を両立する家庭が増えています。その中には、ひとり親の家庭も含まれています。新型コロナウイルス感染症の拡大で非正規労働者が増え、物価高で子育て世代の家計は圧迫され続けています。放課後児童クラブの実施は、働く親とその子どもにとって欠かせないものとなっています。 本市の放課後児童クラブの実態を明らかにし、事業者への委託料の拡充により利用者である子どもの放課後を豊かに保障し、親の子育てと仕事の両立を今以上にしっかりとサポートできるようになることを求め質問を行います。	(4) 放課後児童クラブの定員と待機について	④支援体制強化加算はどのような場合に算定できるか、また本市で算定している事業所はないと聞いているがその理由を伺う。 ①放課後児童クラブは全小学校区内に設置されているか伺う。 ②放課後児童クラブは放課後に児童が過ごす施設であり、小学校からの距離や位置関係など、どのような場所に設置されるのが適切と考えているか伺う。 ③本市は放課後児童クラブの待機児童数はゼロと聞いているが、定員は子どもが通っている小学校区内にある放課後児童クラブに、その子どもが入所できるだけ十分に確保されているか伺う。 ④希望した小学校区内の放課後児童クラブに入所できなかったなどの「隠れ待機児童」が存在していると考えるが、把握しているか伺う。 ⑤今年度新1年生で学区内の放課後児童クラブに入所できず学区外に入所することになり、想定していた以上に支出が増えてしまったひとり親家庭の保護者からとても困っていると相談を受けている。このような状況が起きている背景と解決策についてどう考えているか伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

16番	新井 亜由美 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(5) 市独自の補助で課題解決を	①近隣市と比較して月の利用料（保育料）が高くなっていることを解決する必要があると考える。尾張旭市は民間の事業所に対して、国基準の補助金とは別に市独自の補助金を出しており、本市でも同様に市独自の補助金を出すことで、月の利用料の引き下げが可能になると考えるが見解を伺う。 ②兄弟で入所している場合の2人目以降や、ひとり親や生活保護家庭の減免の実施状況は事業所ごとで様々であるが、近隣市では利用料を減免した分を補填する補助金がある。市内のどの放課後児童クラブを利用しても等しく減免を受けられるようにするためにも、事業者の努力に委ねることなく市独自の補助で減免制度を整える必要があると考えるが見解を伺う。 ③放課後児童クラブの施設は小学校内に設置されている場合は校舎を使用し、それ以外は自社での建設や賃借になるが、施設の建設費や家賃、修繕費、耐震化等の費用は、校内にあるクラブと校外に施設を建設・賃借して実施しているクラブとでは、大きな差が生じている。家賃や修繕費等の補助が必要と考えるが見解を伺う。 ④質問を通して明らかになった近隣市との格差や課題については、利用者である子どもや保護者の願い、事業者の要望等を事業に反映し早急に解決していかなければならないと考える。本市で子どもを産み育て、仕事と子育てを両立し、将来にわたって本市で暮らしていきたいと思ってもらえるまちにするために、市長は放課後児童クラブ事業の課題解決にどう取り組んでいくのか決意を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。